

手のひらサイズから大物まで 精密板金加工の技能集団

日本ゲージ株式会社



代表取締役 十一郎氏



1個から量産まで幅広く請負う精密板金の技術力 コストや品質を考慮したVE提案による新規受注力

日本ゲージ株式会社は、レーザー加工機やNCタレットパンチプレスを用いて、切断、抜き、タップ、曲げなど、徹底した自動化による精密板金加工を手掛ける会社だ。鋼板やアルミ、ステンレスなど広範なワークに対応でき、単一部品の製造だけを行うのではなく、溶接や塗装、組立を伴うアセンブリでの対応が可能なため、エレベータや業務用プリンタ、理化学機器の筐体など、大物板金の加工を幅広く行ってきた。その高い技術を基に、手のひらサイズから大物まで、1個からでも多品種少量生産での受注生産に応じて新規受注を増やし続けている。

◎高速プリンタ生産で培った高度な技術

1933 (昭和8) 年に創業された同社には89 年の歴史がある。「日本ゲージという社名の 由来は、初代が航空機などの計測機器を製造



ファイバーレーザー溶接口ボット

していたから」と三代目の山野内十一郎社長 は明かす。その後、二代目が1975(昭和50) 年に高速プリンタ部品の製造を開始したこと により精密板金分野に進出、高い技術力を 培った。三代目で様々な業界や産業に進出、 営業力と技術力を強化した結果、今ではエレ ベータのほか、理化学機器の遠心分離機や医 療機器の筐体など、幅広い業種の製品を精密 板金による金属加工で生産している。各時代 毎に受注・生産体制を変えていった結果、長 寿企業として事業を継続できている。同社に は87名の社員がおり、その内の60名ほどが 工場内の機械・溶接・組立などの部門で製造 を担っている。一人の担当がプレスや曲げ、 切削など複数の加工を受け持ち、多能工とし て幅広い技能を有する。「工場板金技能士や 塗装技能士など、複数の国家資格を保有する 社員も多い」と山野内社長は明かす。精密板



塗装作業風景

金における同社の高度な技術がうかがえる。

○コスト×クオリティの提案で新規取引先を開拓

今では手のひらサイズから大物まで、幅広 く精密板金を手掛ける。エレベータなど、か つては大手数社だけだった受注案件を、間口 を広げ多品種少量生産へ切り替えたことで新 規の取引先が300社以上に拡大した。1社依 存のリスクを感じ、2000年にISO9001を取 得後、東京ビックサイトで開催される展示会 などにも毎年積極的に参加し、様々な業種・ 業界の会社と取引を開始。この転換には「意 識改革が必要だった」と山野内社長は振り返 る。当初は工場からの反発が強く、「1個か らの受注は割に合わない、手間がかかる」と いう意見も多かった。だが新規案件をいくつ もチャレンジする内、技術力も向上し知識の 蓄積となっていった結果、同じ仕様でもコス トを下げて性能を上げる技術など、Value Engineering (VE) 提案 (製品の持つ価値を 機能・品質とコストの両面で総合的に優れた ものになるよう追求する提案)が行えるよう になったのだ。

例えば、工作機械などに使用されるスケー ルの高精度加工や板金+切削+接着+レー

経営理念

日本ゲージ株式会社は、 社員の自己成長を尊重し、 ものづくりの楽しさを通じて 技術革新を進め、 新しい時代の産業発展に貢献します。



本社・工場社屋

ザー溶接等の複合加工をすることで、今まで 難しかった加工をローコスト、高品質で加工 する事が可能となった。また、メーカーの開 発者にダイレクトに提案することで新たな受 注を獲得している。

こうした独自の視点による提案が新規案件 の獲得に大きな力を発揮している。

展望用エレベータなど、意匠性の高い製品を精密板金で手掛けることが多い同社。「社員たちには弊社ならではの働き甲斐がある」と山野内社長は言う。首都圏の高級ホテルやテーマパーク、公共交通機関の施設など、たくさんの人が訪れる場所に自分達が手掛けた製品が設置される機会があるため、密かに自分達の製品を見にその場所を訪れる楽しみがあるのだ。そうした働き甲斐が社員たちの誇りとなり、技術に磨きを掛ける原動力となっている。

会社概要

創 業:1933 (昭和8) 年4月

所 在 地:茨城県東茨城郡茨城町長岡 3652

事業内容:昇降機かご室意匠製品・出入口意匠製

品・ドア開閉装置、医療・理化学機器、 半導体製造装置、大型プリンタ部品、分

煙装置部品などの精密板金製品の設計・

製作・塗装・配線・組立

資本金:4000万円 社員数:87名



118